

2014 年度

公益財団法人東京子ども図書館

年次報告

〒 165-0023 東京都中野区江原町 1-19-10

2015 年 7 月発行

Tel. 03-3565-7711 Fax. 03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>



財団設立 40 周年 記念講演会

40 周年の山を越えました

理事長 松岡享子

2014 年 1 月 31 日の、大嶋・ライアン・ユミコらさんによるコンサートにはじまって、2015 年 3 月 13 日に行われたわたくしの——というよりは全館あげての——講演会をもって、40 周年を記念する事業を、すべて無事終えることができました。記念事業のひとつひとつが、わたしたちが 40 年にわたってしてきたこと、そして、その積み重ねがもたらしたものを確かめるよい機会になりました。マラソンを通して明らかになった「おはなしのろうそく」の普及は、とりわけ感慨深いものがありました。40 年の道の途中から館の仲間に加わり、ともに歩みはじめた若い職員には、この 1 年は、とくに貴重な学びの体験になったのではないかと思います。

40 年のさらに前、館設立に至る動きのもとになった「かつら文庫」をはじめとする家庭文庫の時代を知っている者は、今ではもうわずかになりました。その数少ない者のひとりであるわたしとしては、はっきりとした見通しがあったわけではないままに走りだしそのとき、そのとき必要だと感じたことを形にしようと夢中でやってきたことが、ふり返って見ると、ひとすじの道になっているのを見ることができて感謝でした。

おかげさまで、40 年の山は越えました。この 40 年も、はげしい変化の時代でしたが、これからはますます大きく変わっていくでしょう。とくに、つぎつぎに登場してはどんどん変化していくコミュニケーションの手段が、わたしたちの生活や感覚にどのような影響をおよぼすか、そのなかに生まれてくる子どもたちがどんなふう to 育っていくのか、想像するのもむづかしい状況です。

わたしたちが素朴に信じて、そこに仕事の礎をおいてきた「本はよいもの」「本は子どもを幸せにするひとつの手だて」という信念が、揺さぶられ、試される事態が生じるかもしれません。これからの東京子ども図書館を担う若い世代の人たちが、それを脅威ではなく挑戦と受け止め、50 年に向けて力強く進んでいってくれるように願っています。

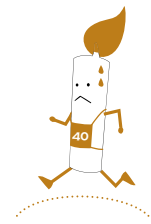




財団設立 40 周年記念事業

2014年1月31日～2015年3月13日

財団法人設立の認可を得てから満40年の誕生日にスタートした40周年記念事業は、年度をまたぎ、多くの成果を得ながら進行し、今年3月の記念講演会をもって無事締めくくることができました。皆さまのご協力、ご支援に、心より感謝申し上げます。以下に、今年度事業のあらましをご報告いたします。



記念事業の柱は**おはなしのろうそくチャリティマラソン**。「おはなしのろうそく」全巻に収録されているお話を、全国のみなさんに語っていただき、そのご報告をホームページの特設ページに集約する参加型の試みで、お話を語った方、聞いた方から1話につき40円のご寄付もお願いしました。全国から熱心な参加があり、お話の広まりを実感することができました。マラソンのゴールは2015年1月31日。2月24日の月例お話の会では、最新巻『おはなしのろうそく30』の出版記念お話会と兼ねて、マラソンの最終報告もしました。聞き手の人数は、子ども366,237名、おとな94,812名。語られたお話数は延べ15,432話、寄付金総額は3,180,535円でした。



ろうそく募金箱

記念事業のもうひとつの柱は**出張講座キャラバン**です。当館の役職員がチームを組んで各地に出向き、その地域のご要望にあわせて児童図書館サービスの基本を学ぶ数コマの講座を企画するものです。その皮切りとなったのが、広島県子どもの読書連絡会との共催で行った「出張講座キャラバン in 広島」です。



出張講座キャラバン in 広島講座のようす

- ・7/20 松岡享子記念講演会 519名、お話会77名 於・広島国際会議場
- ・7/21～22 子どもの読書とっておき講座 64名 於・広島市西区民文化センター

子どものための読書活動に携わる多くの方々の参加がありました。出張講座キャラバンは年度をまたぐ継続事業として、宮城、新潟での開催準備が進められました。



よみうり大手町ホール受付風景

記念事業の締めくくりとなった**記念講演会「子どもと本——きのう・きょう・あす」**(2015年3月13日 於・よみうり大手町ホール)にも483人が集い、なごやかな交流が見られました。松岡享子の講演に先立って、再編集した当館広報映像「子どもと本のたのしい出会い——東京子ども図書館の活動」(森英男氏製作)の上映と張替恵子事務局長による概説「40年のあゆみをふりかえって」がありました。



記念講演会より

また、40周年記念グッズとして、大社玲子さんの絵によるクリアファイルを製作・販売しました。当館ホールには、今まで刊行された出版物全点を展示するショーケースを新設しました。



40周年記念クリアファイル

一年のあゆみ

4月

- ・かつら文庫一般公開開始
- ・昼のお話会（11日、10/10、1/23）
- ・池田正孝氏スライドとお話（11日、7/11、10/10）
- ・児童室おばあさんのいす（19日、他8回）
- ・資料室 T&T「アンをめぐる人びと」（25日）

5月

- ・児童室こどもの日開館（5日）
- ・子どもの本蚤の市（27～31日）
- ・三浦佑之氏・茨木啓子氏講演会「日本の神話」（30日）

6月

- ・やはたみずのとう幼稚園招待（3、25日）
- ・中野区立江原小学校でお話（10、11、12日）
- ・かつら文庫午後のお話会（10日、11/27）
- ・「なかの育フェス！」に参加（15日）

7月

- ・森英男氏 F&T「ノンちゃん牧場のこころみ」（1日）
- ・児童図書館の基本を学ぶ出張講座キャラバン in 広島（20日・21日・22日）
- ・練馬区立開進第三中学校 2年生職業体験（23、30日）

8月

- ・児童室夜のお話会（16日）
- ・わらべうた1日講座（21、28日）

9月

- ・「3.11からの出発」チャリティお話会（12日）
- ・「2014年度東燃ゼネラル児童文化賞」贈賞式（18日）

10月

- ・第9期わらべうた連続講座（2、9、16日）
- ・石田房枝氏講座「子どもが健やかに育つために」（11日）
- ・学習院初等科でお話（24日）

11月

- ・中野区立江原小学校2年生学級招待（4日）
- ・『おはなしのろうそく30』刊行（19日）
- ・バザー（23日）

12月

- ・中野区立江原保育園招待（2日、他3回）
- ・かつら文庫クリスマス会（13日）
- ・児童室クリスマス会（20日）

2月

- ・尾崎真理子氏講演会「石井桃子さんの戦後——子どもの本と農場、二つの開拓期」（4日）
- ・『今、この本を子どもの手に』刊行（12日）
- ・中野区立江原小学校3年生見学（20日）
- ・第450回月例お話の会「おはなしのろうそく30」出版記念&チャリティマラソン報告会（24日）

3月

- ・かつら文庫「三月ひなのつきを読む会」（3日）
- ・設立40周年記念松岡享子講演会「子どもと本——きのう・きょう・あす」（13日）

I 概況

2014年度の最重要目標は財団設立40周年記念事業を計画通り行うことでしたが、その傍ら、かつら文庫の一般公開や、「3.11からの出発」の結実となるブックリスト『今、この本を子どもの手に』の刊行、児童図書館基本蔵書目録2『物語の森へ』の選定作業など大きなプロジェクトを並行して進め、例年にも増して多忙な1年となりました。

昨年の改装工事により、子どもだけではなく、おとなの方々にもご利用いただける施設となったかつら文庫には、予想を上回る大勢の見学者がありました。施設や資料のご案内は、職員が交代で出向いて行っていますが、各地からおいでくださったお客さまから、ご自身の活動についてお話をうかがうことも度々あり、こちらも元気をいただきました。また、近隣住民や機関からの関心も高まりつつあり、連携した試みもいくつかはじまりました。

東日本大震災後、被災地に本を贈る方や図書館再建の参考になるようにと、書店で手に入る本の中から推薦したい作品を選んだ簡易なブックリストを配布しました。これを幅広く活用していただくために書籍化したのが『今、この本を子どもの手に』です。情報を再確認し、1000冊を収録しました。長らくご利用いただいていた『私たちの選んだ子どもの本』に代わるリストとして、刊行直後から注文が相次ぎ、1ヵ月で増刷の運びとなりました。一方、入手状況にかかわらず、図書館で備えてほしい作品を紹介するのが基本蔵書目録です。『絵本の庭へ』に続く『物語の森へ』は昔話、神話、創作物語、詩など収録範囲が広く、選考対象も膨大ですが、外部ボランティアのお力も借りながら着々と作業を継続しました。来年度はいよいよ編集作業に取り組みます。

そのほか、児童室での地域共催事業、資料室蔵書データベースの構築、「在日日系ブラジル人の子どもたちへの読書支援」の対象地域拡大など、通常業務でも新しい動きが見られます。

40周年の節目の年に、東燃ゼネラル児童文化賞をいただき、子どもと本をつなぐ活動を精一杯続けていこうとの思いを新たにしました。



こどもの日開館 絵巻「ろうそくマラソン」制作中

賛助会費、機関誌購読料、一般寄付が前年度より減り、厳しい状況になりましたが、“おはなしのろうそくチャリティマラソン”のご寄付、東燃ゼネラルの賞金、個人の方からのまとまったご寄付もあり、何とか乗り越えられました。資金繰りは、決して楽ではありませんが、おかげさまで計画通りに事業を進めることができました。

2003年より当館評議員、理事を歴任された社浦迪夫氏が逝去されました。財務を担当し、当館の公益財団法人認定や、かつら文庫改修工事の助成申請などに大きな力を発揮してくださいました。ご貢献に感謝しております。

■財務諸表

貸借対照表 2015年3月31日現在（単位：円）

科 目	金 額	科 目	金 額
I. 資産の部	782,146,044	II. 負債の部	14,933,323
1. 流動資産	33,172,591	1. 流動負債	14,933,323
現金預金	12,736,847	未払金	394,200
販売用図書	2,619,616	前受金	13,333,100
機関誌	15,413,010	預り金	1,206,023
売掛債権	2,393,118	III. 正味財産の部	768,015,806
前払費用	10,000	1. 指定正味財産	0
2. 固定資産	748,973,453	2. 一般正味財産	768,015,806
(1) 基本財産	672,187,793	負債及び正味財産合計	782,949,129
土地	361,224,400		
建物	231,709,415		
著作権	39,253,978		
定期預金	40,000,000		
(2) その他の固定資産	76,785,660		

正味財産増減計算書 2014年4月1日から2015年3月31日（単位：円）

I 一般正味財産増減の部

●経常収益

科 目	金 額
基本財産運用収入	21,051,998
基本財産利息収入	117,401
基本財産配当収入	465,015
基本財産印税収入	20,469,582
寄付金収入	18,930,397
助成金	1,056,000
3.11からの出発	4,464,180
一般寄付	13,410,217
賛助会費	13,555,500
事業収入	53,106,136
機関誌購読料	7,918,687
講習会・講演会・お話し	3,810,100
催事収入	3,338,560
講師料	2,736,472
登録料	32,000
施設使用料	459,000
取材・資料協力費	34,009,825
出版物売上収入	801,492
雑収入	2,573,337
受取利息	1,802
雑収益	2,571,535
当期収入合計	109,217,368

●経常費用

科 目	金 額
事業費	108,674,733
人件費	59,708,027
図書館費	10,762
機関誌発行費	4,061,465
講習会・講演会・お話し	1,524,217
調査研究費	1,287,783
人材育成費	1,567,844
催事費	2,399,967
広報活動費	1,811,055
出版費	17,715,559
在日ブラジル人・読書支援活動	1,009,078
会議費	26,000
3.11からの出発	4,673,255
一般諸費	4,521,918
減価償却費	5,855,803
諸会費	69,000
租税公課	2,433,000
管理費	9,056,832
人件費	6,066,057
会議費	26,000
事務費	1,534,647
一般諸費	618,611
減価償却費	789,217
租税公課	22,300
経常費用計	117,731,565

II 期末正味財産の部

科 目	合 計
当期一般正味財産増減額	- 8,514,197
正味財産期首残高	776,530,003
正味財産期末残高	768,015,806